



イサク事業所の屋上に取り付けられた太陽光パネル

# おひさま発電 優しい地球に

## 宇治・イサク事業所

### 温暖化防止、地域貢献へ

#### 障福祉施設 点灯式で祝福 で府内初

社会福祉法人同胞会が運営する宇治市伊勢田町毛語の障害者就労支援施設「イサク事業所」が20日、太陽光発電設備で電力をつくる「おひさま発電所」の点灯式が開かれた。同発電所の設置は市内で初めて。施設利用者や関係者らが、NPOと共同で取り組む環境に優しいシステムでの発電スタートを祝った。

おひさま発電所は、地球温暖化対策の意識高揚などを目的に、認定NPO法人「きょうとグリーンファンド」(下京区)が2001年から設置を進めている。京都市や城陽市の幼稚園・保育園で取り入れられており、今回で18カ所目。障害者福祉施設では初の導入例。

イサク事業所は2012年に開所。農作物の加工調理や販売、カフェの運営と併せ、有機・自然農法による農園で野菜栽培に取り組んでいる。同ファンドからおひさま発電所の提案を受け、自然の力を大切に生かそうとする活動趣旨に共鳴し、設置を決めた。

鉄筋3階建ての同施設屋上に1.2メートル×1.6メートルの太陽光パネルを63枚取り付け、設備容量10キロワットの発電が可能となった。設置費用など約500万円は、ファンドの基金と市民からの寄付などで賄う。すべてを電力会社に売電し、ファンドはその収



おひさま発電所の誕生を祝う点灯式の参加者たち

を供給できる。イサク事業所の石崎啓子施設長は公益事業が求められるという社会福祉法人として、優しい地球を残すことで地域貢献したいと話した。点灯式には約30人が参加し、同胞会の大賀幸一理事長らが挨拶し

た。府地球温暖化防止活動推進センターの木原浩貴さんが「地球の気温は私たちがどうするかで大きく違う。精いっぱい対策すれば、温度上昇を食い止められる」と、おひさま発電所の必要性を説明した。このあと、利用者代表

がスイッチを入れ、和紙の手作りランパシェイドに明かりを灯した。なお、同ファンドでは、イサク事業所のおひさま発電の設置寄付金への市民協力を引き続き呼びかけている。1口3000円、3月10日まで。